

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人睦学園

(2) 大学名

兵庫大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒675-0195

兵庫県加古川市平岡町新在家2301番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	ワタナベ アズマ 渡邊 東 (平成20年1月15日)		
学長	コウノ マコト 河野 真 (平成28年7月1日)		
研究科長	ミトク カズコ 三徳 和子 (令和2年4月1日)		
学科長等	—		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)
令和3年度に報告する内容 → (3)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学研究科 看護学専攻 修士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	2年	6人	-	12人	新規入学者を募集	基礎となる学部等 看護学部 看護学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考										
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期													
A 入学定員	/										0.24倍	-倍											
志願者数														6人	-人	6人	-人	(-)	(-)	[-]	[-]		
受験者数														2	-	1	-	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]
合格者数														2	-	1	-	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]
B 入学者数														2	-	1	-	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]
入学定員超過率 B/A														0.33		0.16							

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考				
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
1年次	/		/		/		2	—	1	—					
							[—]	[—]	[—]	[—]					
							(—)	(—)	(—)	(—)					
2年次							/		/			/		2	—
														[—]	[—]
	(—)	(—)	(—)	(—)											
3年次	/		/		/		/								
4年次									/		/		/		
計	/		/		/		2	3							
							[—]	[—]	[—]	[—]					
	(—)	(—)	(—)	(—)											

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	－人	－人	平成29年度	－人	－人	
平成30年度	－人	－人	平成29年度	－人	－人	
			平成30年度	－人	－人	
令和元年度	－人	－人	平成29年度	－人	－人	
			平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
令和2年度	2人	0人	平成29年度	－人	－人	
			平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	0人	0人	
令和3年度	3人	0人	平成29年度	－人	－人	
			平成30年度	－人	－人	
			令和元年度	－人	－人	
			令和2年度	0人	0人	
			令和3年度	0人	0人	
合計		0人		0人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{2} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{3} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻（博士前期課程）>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法特論	1前	2			3						
	疫学・統計学特論	1前	2			1						
	看護倫理学特論	1前		2		2						
	看護理論特論	1前		2		1						1
	看護教育学特論	1後		2		1	1	1				
	臨床死生学特論	1後	2			1						2
	エンドオブライフケア特論	1後		2		2						2
	保健医療福祉学特論	1後		2		1						3
	小計(8科目)	-	6	10	0	8	1	1	0	0	0	7
基盤看護学	看護教育管理学特論	1前		2		1	1	1				1
	看護教育管理学特論演習	1後		2		1	1	1				1
	長寿科学看護特論	1前		2		2						1
	長寿科学看護特論演習	1後		2		2						1
	小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	1	0	0	0	2
エンドオブライフケア看護学	エンドオブライフケア看護学特論	1前		2		2						
	エンドオブライフケア看護学特論演習	1後		2		2						
	小計(2科目)	-	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0
生涯発達看護学	成人・老年看護学特論	1前		2		1	1					1
	成人・老年看護学特論演習	1後		2		1	1					1
	母性・小児看護学特論	1前		2		2						
	母性・小児看護学特論演習	1後		2		2						
	小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	0	0	0	0	1
広域看護学	精神看護学特論	1前		2		2						
	精神看護学特論演習	1後		2		2						
	在宅看護学特論	1前		2		1	1					1
	在宅看護学特論演習	1後		2		1	1					
	地域看護学特論	1前		2		1						1
	地域看護学特論演習	1後		2		1						1
小計(6科目)	-	0	12	0	4	1	0	0	0	0	3	
科目研究	特別研究M	1・2通	8			13	3					
	小計(1科目)	-	8	0	0	13	3	0	0	0	0	0
合計(25科目)			-	14	42	0	13	3	1	0	0	12
卒業要件及び履修方法												
<p>(修了要件) 本研究科に2年以上在籍し、所定の単位(32単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。 (履修方法) (1)共通科目から、必修6単位を履修する。 (2)専門科目のうち、自身が専攻する特論(2単位)、特論演習(2単位)を履修する。 (3)共通科目、専門科目のうち、自身が専攻する特論、特論演習以外の科目から14単位以上を履修する。 (4)特別研究M(8単位)を履修する。</p>												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法特論	1前	2			3						
	疫学・統計学特論	1前	2			1						
	看護倫理学特論	1前		2		2						
	看護理論特論	1前		2		1						1
	看護教育学特論	1後		2		1	1	1				
	臨床死生学特論	1後	2			1						2
	エンドオブライフケア特論	1後		2		2						2
	保健医療福祉学特論	1後		2		1						3
	小計(8科目)	-	6	10	0	8	1	1	0	0	0	7
基盤看護学	看護教育管理学特論	1前		2		1	1	1				1
	看護教育管理学特論演習	1後		2		1	1	1				1
	長寿科学看護特論	1前		2		2						1
	長寿科学看護特論演習	1後		2		2						1
	小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	1	0	0	0	2
エンドオブライフケア看護学	エンドオブライフケア看護学特論	1前		2		2						
	エンドオブライフケア看護学特論演習	1後		2		2						
	小計(2科目)	-	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0
生涯発達看護学	成人・老年看護学特論	1前		2		1	1					1
	成人・老年看護学特論演習	1後		2		1	1					1
	母性・小児看護学特論	1前		2		2						
	母性・小児看護学特論演習	1後		2		2						
	小計(4科目)	-	0	8	0	3	1	0	0	0	0	1
広域看護学	精神看護学特論	1前		2		2						
	精神看護学特論演習	1後		2		2						
	在宅看護学特論	1前		2		1	1					1
	在宅看護学特論演習	1後		2		1	1					
	地域看護学特論	1前		2		1						1
	地域看護学特論演習	1後		2		1						1
小計(6科目)	-	0	12	0	4	1	0	0	0	0	3	
科目研究	特別研究M	1・2通	8			13	3					
	小計(1科目)	-	8	0	0	13	3	0	0	0	0	0
合計(25科目)			-	14	42	0	13	3	1	0	0	12
卒業要件及び履修方法												
<p>(修了要件) 本研究科に2年以上在籍し、所定の単位(32単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。 (履修方法) (1)共通科目から、必修6単位を履修する。 (2)専門科目のうち、自身が専攻する特論(2単位)、特論演習(2単位)を履修する。 (3)共通科目、専門科目のうち、自身が専攻する特論、特論演習以外の科目から14単位以上を履修する。 (4)特別研究M(8単位)を履修する。</p>												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学研究方法特論	1前	2			3						
	疫学・統計学特論	1前	2			1						
	看護倫理学特論	1前	2			2						
	看護理論特論	1前	2			1						1
	看護教育学特論	1後	2				1	1				
	(未開講)											
	臨床死生学特論	1後	2			1						2
	エンドオブライフケア特論	1後	2			2						2
	保健医療福祉学特論	1後	2			1						3
小計(8科目)	-	6	10	0	7	1	1	0	0	0	7	
基盤看護学	看護教育管理学特論	1前	2				1	1				1
	看護教育管理学特論演習	1後	2				1	1				1
	長寿科学特論	1前	2			2						1
	(未開講)											
	長寿科学看護特論演習	1後	2			2						1
小計(4科目)	-	0	8	0	2	1	1	0	0	0	2	
エンドオブライフケア看護学	エンドオブライフケア看護学特論	1前	2			2						
	エンドオブライフケア看護学特論演習	1後	2			2						
	小計(2科目)	-	0	4	0	2	0	0	0	0	0	0
生涯発達看護学	成人・老年看護学特論	1前	2			1	1					1
	(未開講)											
	成人・老年看護学特論演習	1後	2			1	1					1
	母性・小児看護学特論	1前	2			1						1
	母性・小児看護学特論演習	1後	2			1						1
小計(4科目)	-	0	8	0	2	1	0	0	0	0	2	
広域看護学	精神看護学特論	1前	2			2						
	精神看護学特論演習	1後	2			2						
	在宅看護学特論	1前	2			1	1					1
	在宅看護学特論演習	1後	2			1	1					
	地域看護学特論	1前	2			1						1
	地域看護学特論演習	1後	2			1						1
小計(6科目)	-	0	12	0	4	1	0	0	0	0	3	
科目研究	特別研究M	1・2通	8			11	3					1
	小計(1科目)	-	8	0	0	11	3	0	0	0	0	1
合計(25科目)			-	14	42	0	11	3	1	0	0	13

卒業要件及び履修方法

(修了要件)

本研究科に2年以上在籍し、所定の単位(32単位以上)を修得するとともに必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験(口頭試問)に合格しなければならない。

(履修方法)

- (1) 共通科目から、必修6単位を履修する。
- (2) 専門科目のうち、自身が専攻する特論(2単位)、特論演習(2単位)を履修する。
- (3) 共通科目、専門科目のうち、自身が専攻する特論、特論演習以外の科目から14単位以上を履修する。
- (4) 特別研究M(8単位)を履修する。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

<p>《共通科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮島多映子教授の就任辞退の理由により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「看護教育学特論」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」から「准教授1」「講師1」に変更（「教授1」はR2.5月AC教員審査予定）。 <p>《専門科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮島多映子教授の就任辞退の理由により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「看護教育管理学特論」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」「兼任1」から「准教授1」「講師1」「兼任1」に変更（「教授1」はR2.5月AC教員審査予定）。 「看護教育管理学特論演習」の専任教員等の配置を「教授1」「准教授1」「講師1」「兼任1」から「准教授1」「講師1」「兼任1」に変更（「教授1」はR2.5月AC教員審査中）。 富安俊子教授の就任辞退の理由により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「母性・小児看護学特論」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」「兼任1」に変更（「兼任1」は令和3年度に教授として就任予定（R2.1月のAC教員審査にて職位教授 M可判定））。 「母性・小児看護学特論演習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」「兼任1」に変更（「兼任1」は令和3年度に教授として就任予定（R2.1月のAC教員審査にて職位教授 M可判定））。 <p>《研究科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 宮島多映子教授、富安俊子教授の就任辞退の理由により、「特別研究M」の選任教員等の配置を「教授13」「准教授3」から、「教授11」「准教授3」「兼任1」に変更（「兼任1」はR2.1月のAC教員審査にて職位教授 MO合判定（令和3年度就任予定）、1人はR2.5月AC教員審査予定）。

【令和3年度】

<p>《共通科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 原田広枝教授の就任（令和2年5月AC教員審査済）により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「看護教育学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」から「教授1」「准教授1」「講師1」に変更。 <p>《専門科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 原田広枝教授の就任（令和2年5月AC教員審査済）により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「看護教育管理学特論」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」「兼任1」から「教授1」「准教授1」「講師1」「兼任1」に変更。 「看護教育管理学特論演習」の専任教員等の配置を「准教授1」「講師1」「兼任1」から「教授1」「准教授1」「講師1」「兼任1」に変更。 篠原ひとみ教授の就任（令和2年5月AC教員審査済）の就任により、教員の配置を以下のとおり変更。 <ul style="list-style-type: none"> 「母性・小児看護学特論」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任1」から「教授2」に変更（R2.1月のAC教員審査にて職位教授 M可判定）。 「母性・小児看護学特論演習」の専任教員等の配置を「教授1」「兼任1」から「教授2」に変更（R2.1月のAC教員審査にて職位教授 M可判定）。 <p>《研究科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> 原田広枝教授、篠原ひとみ教授の就任により、「特別研究M」の選任教員等の配置を「教授11」「准教授3」「兼任1」から「教授13」「准教授3」に変更（AC教員審査にて職位教授 MO合判定）。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
4 科目	21 科目	0 科目	25 科目	4 科目	21 科目	0 科目	25 科目	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{25} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	兵庫大全体 兵庫大短期大等と 共用					
	校舎敷地	0 m ²	72,973 m ²	0 m ²	72,973 m ²						
	運動場用地	0 m ²	9,600 m ²	0 m ²	9,600 m ²						
	小 計	0 m ²	82,573 m ²	0 m ²	82,573 m ²						
	そ の 他	0 m ²	10,706 m ²	0 m ²	10,706 m ²						
合 計	0 m ²	93,279 m ²	0 m ²	93,279 m ²							
(2) 校 舎	専 用	85.57 m ²	29,200.08 m ²	1,773.35 m ²	31,059 m ²	兵庫大全体 兵庫大短期大等と 共用					
	(85.57m ²)	(29,200.08m ²)	(1,773.35m ²)	(31,059m ²)							
(3) 教 室 等	講 義 室	29 室	演 習 室	28 室	実験実習室	34 室	情報処理学習施設	4 室	語学学習施設	1 室	兵庫大全体 兵庫大短期大等と 共用
							(補助職員 3人)		(補助職員 1人)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称				室 数		教員就任辞退のため (2) 教員新規採用のため (3)				
	看護学研究科 看護学専攻				19 17 19 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能の ため、大全体の数 受入数変更による変動の ため(3) 受入数変更による変動の ため(2)			
	看護学研究科	55,058 55,092 [6,910] 64,553 [6,889] (55,092 [6,910]) (54,283 [6,819])	1,699 [214] 1,689 [213] 2,014 [256] (1,689 [213]) (1,964 [213])	3 [1] 7 [2]	6,005 6,962 6,955 (6,962) (6,955)	5,873 6182 (6,182)	58 288 (288)				
	計	55,058 55,092 [6,910] 64,553 [6,889] (55,092 [6,910]) (54,283 [6,819])	[214] [213] 2,014 [256] (1,689 [213]) (1,964 [213])	3 [1] 7 [2]	6,005 6,962 6,955 (6,962) (6,955)	5,873 6182 (6,182)	58 288 (288)				
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		書架増減による変更 (2)				
	1,829 1,885 m ²		270		151,200 151,194						
(7) 体 育 館	面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要								
	2,286 m ²		テニスコート4面								
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	博士前期課程	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	計画見直しに伴う変更 (2)		
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	1,000千円	4,400千円	4,400千円			
		共同研究費等	1,000千円 3,000千円	1,000千円 3,000千円	設備購入費	6,500千円	- 千円	- 千円			
		学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		750千円	550千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円				
	博士後期課程	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	計画見直しに伴う変更 (2)		
		教員1人当り研究費等	480千円	480千円	図書購入費	1,000千円	4,400千円	4,400千円			
		共同研究費等	1,000千円 3,000千円	1,000千円 3,000千円	設備購入費	6,500千円	- 千円	- 千円			
		学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		750千円	550千円	550千円	- 千円	- 千円	- 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		入学検定料、雑収入等									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	兵庫 大 学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
≪AC対象学部等≫ 看護学部 看護学科	4	90	-	360	学士 (看護学)	1.10	1.10	-	平成29年度		
≪既設学部等≫ 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	4	100	3年次 2	444	学士 (現代ビジネス)	0.94	1.01	令和2年度	平成28年度	兵庫県加古川市 平岡町新在家 2301番地	令和2年度より入学定員減(△20)
経済情報学部 経済情報学科	4	-	-	-	学士 (経済情報)	-	-	-	平成7年度		平成28年度より学生募集停止
健康科学部 栄養マネジメント学科	4	80	3年次 5	330	学士 (栄養学)	0.82	0.73	-	平成13年度		
健康システム学部 看護学科	4	40	-	160	学士 (健康科学)	1.01	0.87	-	平成13年度		
看護学科	4	-	-	-	学士 (看護学)	-	-	-	平成18年度		平成29年度より学生募集停止
生涯福祉学部 社会福祉学科	4	40	-	140		1.00	0.90	-	平成20年度		令和2年度より入学定員増(10)
こども福祉学科	4	50	3年次 5	210	学士 (こども福祉)	0.92	1.14	-	平成25年度		
大学全体	4	400	12	1644	-	0.95	0.96	-	-		
大学の名称	兵庫 大 学 大 学 院						学生募集停止学科数	1	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備 考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(修士・博士前期課程) ≪AC対象学部等≫ 現代ビジネス研究科 現代ビジネス専攻	2	5	-	10	修士 (現代ビジネス)	1.00	1.40	-	令和2年度		
看護学研究科 看護学専攻	2	6	-	12	修士 (看護学)	0.24	0.16	-	令和2年度	兵庫県加古川市 平岡町新在家 2301番地	
≪既設学部等≫ 経済情報研究科 経済情報専攻	2	-	-	-	修士 (経済情報)	-	-	-	平成11年度		令和2年度より学生募集停止
大学院全体 (修士・博士前期課程)	2	11	-	22	-	0.58	0.72	-	-		

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
(博士後期課程) 《AC対象学部等》 看護学研究科 看護学専攻	3	4	-	12	博士(看護学)	1.50	0.75	-	令和2年度	兵庫県加古川市平岡町新在家2301番地	
大学院全体(博士後期課程)	3	4	-	12	-	1.50	0.75	-	-		
大学院全体	2・3	15	-	34	-	0.83	0.73	-	-		
大学の名称	兵庫 大学 短期 大学 部						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
保育科第一部	年	人	年次人	人	短期大学士(保育)	倍	倍	-	昭和32年度	兵庫県加古川市平岡町新在家2301番地	
保育科第三部	2	100	-	200		0.73	0.66	-			
短大全体	3	80	-	240	短期大学士(保育)	1.01	0.87	-	昭和46年度		
	2・3	180	-	440	-	0.91	0.75	-	-		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻（博士前期課程）>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【令和2年度】			【令和3年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	三徳 和子 (71) <令和2年4月> 博士(都市科学) 看護学研究方法特論 保健医療福祉学特論 地域看護学特論 地域看護学特論演習 特別研究M	専	教授	三徳 和子 (71) <令和2年4月> 博士(都市科学) 看護学研究方法特論 保健医療福祉学特論 地域看護学特論 地域看護学特論演習 特別研究M	専	教授	三徳 和子 (72) <令和2年4月> 博士(都市科学) 看護学研究方法特論 保健医療福祉学特論 地域看護学特論 地域看護学特論演習 特別研究M
専	教授	窪寺 俊之 (80) <令和2年4月> 博士(人間科学) 看護倫理学特論 臨床死生学特論 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M	専	教授	窪寺 俊之 (80) <令和2年4月> 博士(人間科学) 看護倫理学特論 臨床死生学特論 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M	専	教授	窪寺 俊之 (81) <令和2年4月> 博士(人間科学) 看護倫理学特論 臨床死生学特論 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M
専	教授	小笠原 知枝 (76) <令和2年4月> 博士(医学) 看護理論特論 エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M	専	教授	小笠原 知枝 (76) <令和2年4月> 博士(医学) 看護理論特論 エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M	専	教授	小笠原 知枝 (77) <令和2年4月> 博士(医学) 看護理論特論 エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M
専	教授	長尾 憲樹 (70) <令和2年4月> 医学博士 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M	専	教授	長尾 憲樹 (70) <令和2年4月> 医学博士 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M	専	教授	長尾 憲樹 (71) <令和2年4月> 医学博士 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M
専	教授	長尾 光城 (68) <令和2年4月> 博士(医学) 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M	専	教授	長尾 光城 (68) <令和2年4月> 博士(医学) 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M	専	教授	長尾 光城 (69) <令和2年4月> 博士(医学) 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習 特別研究M
専	教授	長弘 千恵 (67) <令和2年4月> 博士(医学) 看護学研究方法特論 在宅看護学特論 在宅看護学特論演習 特別研究M	専	教授	長弘 千恵 (67) <令和2年4月> 博士(医学) 看護倫理学特論 臨床死生学特論 精神看護学特論 特別研究M	専	教授	長弘 千恵 (68) <令和2年4月> 博士(医学) 看護倫理学特論 臨床死生学特論 精神看護学特論 特別研究M
専	教授	富安 俊子 (63) <令和2年4月> 博士(保健看護学) 母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M						
専	教授	柴山 健三 (61) <令和2年4月> 博士(医学) 看護学研究方法特論 看護倫理学特論 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M	専	教授	柴山 健三 (61) <令和2年4月> 博士(医学) 看護学研究方法特論 看護倫理学特論 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M	専	教授	柴山 健三 (62) <令和2年4月> 博士(医学) 看護学研究方法特論 看護倫理学特論 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M
専	教授	加藤 知可子 (60) <令和2年4月> 博士(保健看護学) 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M	専	教授	加藤 知可子 (60) <令和2年4月> 博士(保健看護学) 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M	専	教授	加藤 知可子 (61) <令和2年4月> 博士(保健看護学) 精神看護学特論 精神看護学特論演習 特別研究M

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	多田 章夫 (60) <令和2年4月> 医学博士 疫学・統計学特論 特別研究M
専	教授	森田 恵子 (58) <令和2年4月> 博士(保健学) 母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M
専	教授	兒玉 拓 (54) <令和2年4月> 博士(医学) エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M
専	教授	宮島 多映子 (51) <令和2年4月> 博士(医科学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	准教授	高見 千恵 (52) <令和2年4月> 博士(保健学) 在宅看護学特論 在宅看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	白神 佐知子 (58) <令和2年4月> 修士(看護学) 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	大植 由佳 (53) <令和2年4月> 修士(人間科学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	講師	大植 崇 (43) <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習
兼任	教授	高野 敦子 (60) <令和2年4月> 博士(工学) 保健医療福祉学特論 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習
兼任	教授	河野 真 (58) <令和2年4月> Ph. D. (英国) 保健医療福祉学特論
兼任	教授	伊藤 秀樹 (56) <令和2年4月> 修士(福祉マネジメント) 保健医療福祉学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	多田 章夫 (60) <令和2年4月> 医学博士 疫学・統計学特論 特別研究M
専	教授	森田 恵子 (58) <令和2年4月> 博士(保健学) 母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M
専	教授	兒玉 拓 (54) <令和2年4月> 博士(医学) エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M
専	教授	原田 広枝 (70) <令和2年6月> 博士(教育学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	准教授	高見 千恵 (52) <令和2年4月> 博士(保健学) 在宅看護学特論 在宅看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	白神 佐知子 (58) <令和2年4月> 修士(看護学) 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	大植 由佳 (53) <令和2年4月> 修士(人間科学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	講師	大植 崇 (43) <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習
兼任	教授	高野 敦子 (60) <令和2年4月> 博士(工学) 保健医療福祉学特論 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習
兼任	教授	河野 真 (59) <令和2年4月> Ph. D. (英国) 保健医療福祉学特論
兼任	教授	伊藤 秀樹 (56) <令和2年4月> 修士(福祉マネジメント) 保健医療福祉学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	多田 章夫 (61) <令和2年4月> 医学博士 疫学・統計学特論 特別研究M
専	教授	森田 恵子 (59) <令和2年4月> 博士(保健学) 母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M
専	教授	兒玉 拓 (55) <令和2年4月> 博士(医学) エンドオブライフケア特論 エンドオブライフケア看護学特論 エンドオブライフケア看護学特論演習 特別研究M
専	教授	原田 広枝 (71) <令和2年6月> 博士(教育学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	准教授	高見 千恵 (53) <令和2年4月> 博士(保健学) 在宅看護学特論 在宅看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	白神 佐知子 (59) <令和2年4月> 修士(看護学) 成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習 特別研究M
専	准教授	大植 由佳 (54) <令和2年4月> 修士(人間科学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習 特別研究M
専	講師	大植 崇 (44) <令和2年4月> 博士(看護学) 看護教育学特論 看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習
兼任	教授	高野 敦子 (61) <令和2年4月> 博士(工学) 保健医療福祉学特論 長寿科学看護特論 長寿科学看護特論演習
兼任	教授	河野 真 (60) <令和2年4月> Ph. D. (英国) 保健医療福祉学特論
兼任	教授	伊藤 秀樹 (57) <令和2年4月> 修士(福祉マネジメント) 保健医療福祉学特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	本多 彩 (42) <令和2年4月> 修士(文学)※	兼任	准教授	本多 彩 (42) <令和2年4月> 修士(文学)※	兼任	准教授	本多 彩 (43) <令和2年4月> 修士(文学)※
		臨床死生学特論			臨床死生学特論			臨床死生学特論
兼任	講師	中森 えり (64) <令和2年4月> 修士(経済学)	兼任	准教授	中森 えり (64) <令和2年4月> 修士(経済学)	兼任	准教授	中森 えり (65) <令和2年4月> 修士(経済学)
		看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習			看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習			看護教育管理学特論 看護教育管理学特論演習
兼任	講師	三好 陽子 (50) <令和2年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	三好 陽子 (50) <令和2年4月> 修士(看護学)	兼任	講師	三好 陽子 (51) <令和2年4月> 修士(看護学)
		成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習			成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習			成人・老年看護学特論 成人・老年看護学特論演習
兼任	講師	西村 正二 (71) <令和2年4月> 医学士	兼任	講師	西村 正二 (71) <令和2年4月> 医学士	兼任	講師	西村 正二 (72) <令和2年4月> 医学士
		在宅看護学特論			在宅看護学特論			在宅看護学特論
兼任	講師	眞崎 直子 (61) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	眞崎 直子 (61) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	眞崎 直子 (62) <令和2年4月> 博士(医学)
		地域看護学特論			地域看護学特論			地域看護学特論
兼任	講師	阿曾沼 克弘 (64) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	阿曾沼 克弘 (64) <令和2年4月> 医学博士	兼任	講師	阿曾沼 克弘 (65) <令和2年4月> 医学博士
		地域看護学特論演習			地域看護学特論演習			地域看護学特論演習
兼任	講師	比嘉 勇人 (57) <令和2年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	比嘉 勇人 (58) <令和2年4月> 博士(保健学)	兼任	講師	比嘉 勇人 (59) <令和2年4月> 博士(保健学)
		臨床死生学特論 エンドオブライフケア特論			臨床死生学特論 エンドオブライフケア特論			臨床死生学特論 エンドオブライフケア特論
兼任	講師	伊東 美佐江 (56) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	伊東 美佐江 (56) <令和2年4月> 博士(医学)	兼任	講師	伊東 美佐江 (57) <令和2年4月> 博士(医学)
		看護理論特論			看護理論特論			看護理論特論
兼任	講師	吉岡 さおり (47) <令和2年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	吉岡 さおり (47) <令和2年4月> 博士(看護学)	兼任	講師	吉岡 さおり (48) <令和2年4月> 博士(看護学)
		エンドオブライフケア特論			エンドオブライフケア特論			エンドオブライフケア特論
			兼任	講師	鎌原 ひとみ (63) <令和2年4月> 博士(医学)	専	教授	鎌原 ひとみ (64) <令和3年4月> 博士(医学)
					母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M			母性・小児看護学特論 母性・小児看護学特論演習 特別研究M

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・富安俊子教授就任辞退により、篠原ひとみ兼任講師に変更。令和3年度より着任予定として、令和2年1月AC教員審査済み。
- ・宮島多映子教授就任辞退。後任として、令和2年5月AC教員審査を受審予定。

【令和3年度】

- ・令和3年度より、篠原ひとみ兼任講師が専任教授として就任。令和2年1月AC教員審査済み。
- ・宮島多映子教授就任辞退に伴い令和2年6月より、原田広枝専任教授が就任。令和2年5月AC教員審査済み。

- (注)
- ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
13	3	1	0	17	0	13	3	1	0	17	0
(11)	(3)	(1)	(0)	(15)	(0)						
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
14	2	1				14	2	1			
(12)	(2)	(1)									
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
13	3	1	0	17	0	13	3	1	0	17	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数	/		
14	2	1				14	2	1			
[0]	[0]	[0]									

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
67	6	6
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{17}{17} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{6}{17} = \boxed{35.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	富安 俊子	R02.3	選択	母性・小児看護学特論	②	R1.12他大学への転出希望のため就任辞退（2）						
				選択	母性・小児看護学特論演習	②							
				必修	特別研究M	②							
2	教授	宮島 多映子	R02.3	選択	看護教育学特論	①	R2.2他大学への転出希望のため就任辞退（2）						
				選択	看護教育管理学特論	①							
				選択	看護教育管理学特論演習	①							
				必修	特別研究M	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
2	人	必修	2	科目	必修	1	科目	必修	1	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	3	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	4	科目	計	3	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
							該当なし			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
2 人	必修	2 科目	必修	1 科目	必修	1 科目	必修	0 科目
	選択	5 科目	選択	3 科目	選択	2 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	7 科目	計	4 科目	計	3 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{2}{17} = \boxed{11.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

(注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
						該当なし		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		①の合計数(a)		②の合計数(b)		③の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>「大学の所見」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富安俊子専任教授就任辞退。後任として、令和3年度より篠原ひとみ兼任講師が専任教授として就任。令和2年1月AC教員審査済み。 ・ 宮島多映子専任教授就任辞退。後任として、令和2年6月より原田広枝専任教授が就任。令和2年5月AC教員審査済み。 <p>「学生への周知方法」</p> <p>学生に対しては、学期開始時に実施するオリエンテーション期間内に説明を行った。</p>

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和元年9月)	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実行すること。</p> <p>看護学研究科 看護学専攻（M）</p>	<p>留意事項</p> <p>看護学研究科の教育研究水準を維持し、論文指導を担当するに相応しい教員を採用するため、定年規則に定める退職年齢（年度末で67歳）を超える専任教員を採用し教育組織を編成した。退職年齢を超えて採用した教員は、本研究科の完成年度末をもって退職予定である。今後は適切な定年制度の運用を図るとともに、年齢構成の高齢化を改善していくため、計画的な教員採用を行っていく。</p>	<p>履行中</p> <p>適切根定員制度の運用を図るとともに、年齢構成の高齢化を改善するため、「看護学部等人事構想委員会」で計画的な教員採用を行っていく。</p>
認 可 時 (令和元年9月)	<p>完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実行すること。</p> <p>看護学研究科 看護学専攻（D）</p>	<p>留意事項</p> <p>看護学研究科の教育研究水準を維持し、論文指導を担当するに相応しい教員を採用するため、定年規則に定める退職年齢（年度末で67歳）を超える専任教員を採用し教育組織を編成した。退職年齢を超えて採用した教員は、本研究科の完成年度末をもって退職予定である。今後は適切な定年制度の運用を図るとともに、年齢構成の高齢化を改善していくため、計画的な教員採用を行っていく。</p>	<p>履行中</p> <p>適切根定員制度の運用を図るとともに、年齢構成の高齢化を改善するため、「看護学部等人事構想委員会」で計画的な教員採用を行っていく。</p>
設置計画履行 状況調査時 (令和2年3月)	<p>入学定員未充足の改善に努めること。</p> <p>現代ビジネス学部 現代ビジネス学科</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>令和2年度は、当該学科の入学定員の変更を行い、120人から100人とした。学生募集活動については、近年、本学の学生募集コンセプトと毎年度定める学生募集方針及び強化ポイントに基づき、高大接続学生募集活動を実施してきており、昨年度も当該活動をベースとしながら、さらに、現代ビジネス学科の志願者・入学者増を主題とした具体的な施策を実施した。特に、オープンキャンパスへの動員と内容の充実（初めて県外開催も実施）、学科認知拡大と教育内容・魅力を発信することを目的とした高校生対象の各種セミナーの開催、各種制作物の作成、公式サイトと受験生応援サイトの内容充実やSNSの発信強化と年間を通じたWEB広告などによるインターネット上の施策の強化を図った。</p>	<p>履行済</p> <p>—</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
		<p>また、受験生がよりチャレンジしやすい制度となるよう入試改革を行い、商業系高校対象入試の新規導入や取得した検定試験を活用できる方式や一般入試において高校での主体的な活動内容を評価する「総合評価型」の導入などを行った。さらには、多様な学生の受入れとして外国人留学生の募集を本格的に開始し、初年度は7名の留学生が入学した。</p> <p>結果、志願者429人（前年比157.7%）、入学者143人（前年比133.6%）となり、入学定員を充足した。</p>	
	<p>多くの専任教員が就任辞退又は辞任していることから、原因分析とその結果に基づく改善策を適切に講じることにより、教育研究水準の維持向上等に配慮した安定的な教員組織の編成に努めること。また、教員の採用に当たっては、広く優秀な教員を募るために、学内推薦に加えて、学外公募による候補者の確保について検討すること。</p> <p>看護学部 看護学科</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>退職希望の申出があった際は、学部長との面談に加え、教育担当副学長による面談を実施し慰留等の対応を行っている。面談においては、辞任理由の具体的内容をヒアリングし、その原因を把握・分析し、辞任の抑制にむけた改善に取り組む。</p> <p>また、教員の採用に当たっては、広く優秀な教員を募ることを目的に学外公募による候補者確保の手続きを進め実行する。</p> <p>さらに「看護学部人事委員会（構成員：教育担当副学長、看護学部長、看護学科長、看護学科副学科長、事務部部長）」を設置（令和2年4月）し、本学の選考規程及び採用手続きに則り、適正に採用が行われていることの確認や、辞任理由の原因分析及び改善に向けた適切な対策を検討していく。</p>	<p>退職希望の申出があった際は、学部長との面談に加え、副学長（教育担当）による面談を実施し遺留等の対応を行っている。この結果、令和2年度の依願退職者は1名であった。今後も面談制度を活用し、辞任の抑制に向けた改善に取り組む。なお、教員の採用に当たっては、「看護学部等人事構想委員会」における採用計画のもと、学外公募による教員採用を進めていく。</p> <p>履行中</p>
<p>設置計画履行 状況調査時 (令和3年3月)</p>	<p>多くの専任教員が就任辞退又は辞任していることから、原因分析とその結果に基づく改善策を適切に講じることにより、教育研究水準の維持向上等に配慮した安定的な教員組織の編成に努めること。</p> <p>看護学部 看護学科</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>退職希望の申出があった際は、学部長との面談に加え、副学長（教育担当）による面談を実施し遺留等の対応を行っている。面談においては、辞任理由の具体的内容をヒアリングし、その原因を把握・分析し、辞任の抑制に向けた改善に取り組んでいく。</p>	<p>履行中</p>

区 分	附 帯 事 項 等	指 摘 事 項 (改善)	履 行 状 況	履 行 中	今 後 の 実 施 計 画
設置計画履行 状況調査時 (令和3年3月)	定年規程に定める退職 年齢を超える専任教員 数の割合が高いことか ら、定年規程の趣旨を 踏まえた適切な運用に 努めるとともに、教員 組織編成の将来構想を 策定し、着実に実行す ること。 看護学研究科 看護学専攻 (M)	指 摘 事 項 (改善)	定年規則に定める退職年齢 (年度末で67差)の教員 は、本研究科の完成年度末 をもって退職予定である。 引き続き「看護学部等人事 構想委員会」において定年 退職者にあわせた計画的な 教員採用計画を策定すると ともに、年齢構成、教育経 験、研究領域のバランスを 踏まえた採用人事を行って いく。	履 行 中	
	定年規程に定める退職 年齢を超える専任教員 数の割合が高いことか ら、定年規程の趣旨を 踏まえた適切な運用に 努めるとともに、教員 組織編成の将来構想を 策定し、着実に実行す ること。 看護学研究科 看護学専攻 (D)	指 摘 事 項 (改善)	定年規則に定める退職年齢 (年度末で67差)の教員 は、本研究科の完成年度末 をもって退職予定である。 引き続き「看護学部等人事 構想委員会」において定年 退職者にあわせた計画的な 教員採用計画を策定すると ともに、年齢構成、教育経 験、研究領域のバランスを 踏まえた採用人事を行って いく。	履 行 中	

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備 a 図書54,553冊 b 学術雑誌213冊 c 電子ジャーナル7種 d 視聴覚資料6,955種 e 機器・器具6,182種 f 標本 288種	① 図書受入数変動により505冊増。学術雑誌315冊減。 電子ジャーナルを4種減。視聴覚資料を950種減。 機器・器具を309種減。標本を230種減。 当研究科に関連する書籍ではないため、影響はない。

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制 a 委員会の設置状況 兵庫大学・兵庫大学短期大学部FD・SD推進委員会規程（別紙1-1） 兵庫大学大学院ファカルティディベロップメント委員会規程（別紙1-2） b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） [全学] 第1回 令和2年 6月16日（火） 出席10名 第2回 令和2年 7月 7日（火） 出席10名 第3回 令和2年10月16日（木） 出席10名 第4回 令和2年11月16日（月） 出席10名 第5回 令和2年12月18日（金） 出席10名 第6回 令和3年 1月29日（金） 出席9名 第7回 令和3年 3月11日（木） 出席10名 [大学院] 第1回 令和2年 6月11日（木） 出席4名 第2回 令和2年 7月 9日（木） 出席4名 第3回 令和2年 8月 6日（木） 出席4名 第4回 令和2年 9月10日（木） 出席4名 第5回 令和2年11月 5日（木） 出席4名 第6回 令和2年12月10日（木） 出席4名 第7回 令和3年 1月 7日（木） 出席4名

c 委員会の審議事項等

[全学]

- 第1回 (1) オンライン授業化に伴うFD・SD 事業計画の変更について
(2) 2020 年度事業内容と役割分担について
(3) 令和2 年度FD・SD オフィス推進委員会予算について
(4) 分科会活動について
- 第2回 (1) 令和2（2020）年度I期 FD・SD活動について
① FD・SD研修会について（初任教職員研修会、FD・SD研修会）
② 教職員カフェについて（第1回教職員カフェ、教職員カフェ実施計画）
③ 授業アンケートの実施と活用について（オンライン授業アンケートの実施）
④ 授業公開の実施について（I期授業公開、学科等授業公開および意見交換会）
⑤ FD・SD Newsletterについて（News Letter発刊スケジュール）
- 第3回 (1) FD・SD活動について
① FD・SD研修会について
② 教職員カフェについて
③ 授業アンケートの実施と活用（オンライン授業アンケート）
④ F授業公開について
⑤ FD・SD Newsletterについて
- 第4回 (1) FD・SD活動について
① FD・SD研修について
② 教職員カフェについて
③ 授業アンケートの実施と活用
④ 授業公開について
⑤ FD・SD Newsletterについて
- 第5回 (1) FD・SD活動について
① 授業アンケートの実施と活用
② FD・SD研修について
③ 教職員カフェについて
- 第6回 (1) FD・SD活動について
① 教職員FD・SD 研修会について
② 教職員カフェについて
③ 授業アンケートの実施と活用
④ 授業公開の実施について
⑤ FD・SD Newsletter について
- 第7回 (1) FD・SD活動について
① FD・SD研修について
② 教職員カフェについて
③ 授業アンケートの実施と活用
④ 授業公開について
⑤ FD・SD Newsletterについて

(2) その他

- ① 新任者研修について
- ② グッドプラクティス賞について
- (3) 令和3年度 事業計画案について

[大学院]

- 第1回 (1) 令和2年度計画と役割分担について
- 第2回 (1) FD研修会の内容（概要計画）について
- 第3回 (1) 第1回FD研修会の実施内容について
- 第4回 (1) 第1回FD研修会の実施内容について
(2) 研修会アンケートについて
- 第5回 (1) 第1回FD研修会の実施内容の確認について
(2) 研修会アンケート結果の確認について
(3) 第2回FD研修会の内容（概要計画）について
- 第6回 (1) 第2回FD研修会の実施内容について
- 第7回 (1) 第2回FD研修会の実施内容の確認について
(2) 研修会アンケートについて

② 実施状況

a 実施内容

- ・ 新任教職員研修
- ・ 初年次教育の実施状況把握
- ・ 授業アンケート（Ⅰ期オンライン授業アンケート、Ⅱ期授業アンケート）
- ・ 授業公開
- ・ 教職員FD・SD研修会（オンライン研修会：オンライン授業に関する研修会、アクティブラーニングの手法含む）
- ・ 教職員カフェ（オンラインでワークショップ形式及びフリーディスカッション形式で行う情報交換）
- ・ FD・SDニュースレターの発行

b 実施方法

- ・ 新任教職員研修
年度初めに新任教職員対象に「新任教職員研修プログラム」を実施
- ・ 初年次教育と専門教育連携における「学びの見える化」取り組みへの実施状況把握
兵大Basics“A”「日本語（読解と表現）」「英語」「コンピュータ演習」の基礎力テストを実施
学生の基礎力を把握、学生に内省させた。また、専門教育科目に臨むための基礎力を兵大Basics“B”として学科ごとにふりかえりなどの取り組みを実施した。
兵大Basics“C”は、汎用的能力（ジェネリックスキル）を測る目的で次年度以降、外部アセスメントテストを活用して実施する予定である。専門教育への接続部分である兵大プロフェッショナル力については、学科ごとに専門的な科目を設定しルーブリックや自己評価等でふりかえりができるように設計し、次年度以降に実施する。
- ・ 授業アンケート・オンライン
Ⅰ期学期末(8月)にオンライン授業の状況把握のため緊急アンケートをwebで実施した。
Ⅱ期学期末(1月)Webによる授業アンケートを実施した。

- ・ 授業公開

I期・II期ともに、全学科において公開科目を設定し、公開期間内において教職員による授業参観を実施。参観後は、参観シートを記入の上、授業公開者へフィードバックを行った。

また、本年度新たに学科主催の学科等授業公開および意見交換会（2020年9月～12月末）を実施した。学科の授業において目的を持った意見交換会で確認・協働でき、主体的に授業改善への取組みが進んだ。

- ・ 教職員FD・SD研修会・オンライン（ALに関する研修会含む）

オンライン授業で教育の継続のためオンライン研修会を開催する。オンラインでの授業運営方法やグループワークの方法、オンライン授業アンケートの分析・研修会

テーマを設定し、全教職員に対し周知を行い、講演会を全3回（7月、11月、2月）実施した。

- ・ 教職員カフェ・オンライン（ワークショップ形式及びフリーディスカッション形式で行う情報交換）

授業継続のため「オンライン授業」に関するテーマでオンラインでグループディスカッションを実施した。また、教職員FD・SD研修会関連させ、研修会の前後に実施した。

- ・ FD・SDニュースレターの発行

「兵庫大学・兵庫大学短期大学部FD・SDニュースレター」を年2回（9月、3月）発行し、全教職員に配付した。また、学園関係部署や他大学の関係部署等に送付した。

c. 開催状況（教員の参加状況含む）

[全学]

- ・ 新任教職員研修

（教育分野）令和2年4月2日（木）開催 対象者17人、参加者14人（参加率82.3%）

（研究分野及び地域連携関連）令和2年4月3日（金）開催 対象者17人、参加者14人（参加率82.3%）

- ・ 初年次教育の実施状況把握

兵大Basics“A”「日本語（読解と表現）」「英語」「コンピュータ演習」の基礎力テストを実施

学生の基礎力を把握した。また、専門教育科目に臨むための基礎力を兵大Basics“B”として

学科ごとにルーブリック、自己評価を行い、ふりかえりを通じ初年次教育の教育効果を高めた。

- ・ オンライン授業アンケート

I期期末：令和2年8月4日（火）～8月31日 24時（日） 有効回答率 54.5%

コロナ禍におけるオンライン授業に関する緊急アンケート（全学生向け・教員向け）

アンケート集計データを分析し第3回教職員FD・SD研修会で全教職員に向け解説会を実施する。

- ・ 授業アンケート

II期期末：令和2年1月6日（水）～2月5日（金） 回答率 44.0%

II期全科目を対象に授業内及び授業外で実施（実施開始日までに授業が終了した科目も含む）

（実施後のフォロー：学生）

- ・ 授業アンケート結果集計後、アンケート結果の概要をまとめ、学生掲示板において公表（ポスター掲示）。

- ・ 授業アンケートの詳細な集計結果（大学、短大、各学科別）を学生に対して教学情報システムにて公表。

（実施後のフォロー：教員）

- ・ 実施後、専任教員に対し「Webアンケート実施にかかるアンケート」を実施。

- ・ 専任教員および兼任教員に科目シートを返却。

- ・ 科目担当者は、「授業アンケート」に関するアンケートを記入し、委員会に提出。

- ・ カリキュラム改善および授業改善に活用。

- ・ 授業公開

I期：令和2年7月8日（水）～7月22日（水） オンライン授業を対象に短期間実験的に公開した。

公開科目数 8科目 授業参観延べ人数 22人（専任教員 15人、専任職員 7人）

II期：令和2年11月16日（月）～12月11日（金）

公開科目数 56科目 授業参観延べ人数 84人（専任教員 68人、専任職員 16人）

・ 教職員FD・SD研修会（全期間オンライン研修会）

第1回 令和2年7月29日（水） 参加者 143人（教員 104人、職員 16人、非常勤教員他 23人）

テーマ：「オンライン授業について」

本学では、5月から全面オンライン授業となったが、LMSの「教学情報システム」「manaba」「ムードル」映像配信システムの「zoom 他」等を使用、Ⅱ期以降の授業設計のため各学科及び機構からそれぞれオンライン授業の事例発表を行い、同授業の運用の仕方や工夫、課題等を情報共有した。

- ・ 現代ビジネス学科教授 榎木 浩
- ・ 栄養マネジメント学科教授 増村 美佐子
- ・ 健康システム学科准教授 河野 稔
- ・ 看護学科助教 藤後 栄一
- ・ 社会福祉学科教授 田端 和彦
- ・ こども福祉学科教授 高野 敦子
- ・ 共通教育機構准教授 湯瀬 晶文
- ・ 保育科教授 田中 敬子

第2回 令和2年11月4日（水） 参加者 125人（教員88人、職員14人、非常勤教員他 23人）

テーマ：「オンライン授業の可能性について」

オンライン授業アンケートで学生の満足度が高い教員から3名を選出し、「オンデマンド授業の可能性」及び「オンライン授業での工夫」について授業運営や課題、工夫等を情報共有した。

- ・ 共通教育機構教授・教学部長 北島 律之
- ・ こども福祉学科教授 松田 信樹
- ・ 栄養マネジメント学科准教授 中井 玲子

第3回 令和3年2月18日（木） 参加者 100人（教員84人、職員7人、非常勤教員他 9人）※研修会と合同開催
基調講演 ・ 社会福祉学科教授・FD・SDオフィス室長 吉原 恵子

テーマ：「オンライン授業の実施に関する調査の結果報告について」

オンライン授業アンケートの分析結果結果の解説を基調講演とし、Zoomブレイクアウトセッションでワークショップを開催した。オンライン授業の傾向と課題を把握し今後の授業設計について共通認識を得た。また、オンライン時のアクティブラーニングの実証が取れた。

・ 教職員カフェ（全期間オンライン、ワークショップ形式及びフリーディスカッション形式で行う情報交換）

第1回 令和2年8月7日（金） 参加者 48人（教員 40人、職員 2人、非常勤教員他 6人）

テーマを研修会と同じ「オンライン授業の実施に関する調査の結果報告について」とし、日程も関連させる。Zoomブレイクアウトセッション機能を使い研修会のふりかえりをグループワークで行う。また、オンライン時のアクティブラーニングスキルを共有する。

第2回 令和2年11月4日（水） 参加者 17人（教員 14人、職員 1人、非常勤教員 2人）

テーマを「オンライン授業をふりかえるⅡ」とし、オンライン授業に関するワークショップを実施した。

第3回 令和3年2月18日（木） 参加者 100人（教員84人、職員7人、非常勤教員他 9人）※研修会と合同開催
「オンライン授業の実施に関する調査の結果報告について」ワークショップを行う。

・ FD・SDニュースレターの発行

第9号（令和2年10月発刊）

「全学で取り組んだオンライン授業の実施」について、授業継続を支えた人物に焦点をあてた。

第10号（令和3年3月発刊）

「オンライン化と学生とのコミュニケーション」について、学生との関わりに焦点をあてた。

[大学院]

第1回 令和2年10月8日(木) 参加者30人(看護学部教員、大学院生を含む)

「科学研究費申請書の書き方のこつ」

国際医療福祉大学大学院 教授

東京赤坂心理・マネジメント学部心理学科長 中田 光紀 氏

オンライン開催とし、当日に参加できなかった教員等に動画を配信、視聴できるようにした

第2回 令和3年2月25日(木) 参加者40人(看護学研究科、現代ビジネス研究科教員)

「論文指導における注意事項について」

兵庫県立大学名誉教授 小西 和彦 氏

オンライン開催とし、当日に参加できなかった教員等に動画を配信、視聴できるようにした

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

コロナ禍によりオンライン授業が学びの中心となった。FD・SDオフィス推進委員会として「学びの継続」を第1として、5月からタスクフォース中心に「オンライン授業」に関する研修会（FD関連の研修とは別）を全学合同で適宜開催した。FD・SDオフィス推進委員会としては、オンライン授業アンケートを行い、分析・解説を通して全体の傾向と課題を示し共有した。

教職員FD・SD研修会を実施したことにより、学修成果の可視化に向けて理解を深め、考えるきっかけとなり、各教職員の教育の質向上に対する意識を高めることができた。

授業公開実施後には、教職員カフェを開催した。授業公開及び参観結果を踏まえた気づきや授業の実施方法等についてディスカッションを行うことによりオンライン授業でのアクティブラーニングを体験し、授業改善に向けた意識も高まった。また、交流により教職員間の意見交換が進み、組織的に教育力向上に取り組む風土醸成につながった。

授業アンケートについて、2020年度Ⅰ期は授業の実態把握と学生対応のため「オンライン授業アンケート」を教員及び学生に緊急実施した。同集計結果は、第3回研修会にて、分析・解説され共有した。

2020年度Ⅱ期は通常通り授業科目別にwebで実施する。実施後は、学生に対しアンケート結果の概要を公表した。また、教員についてもアンケート結果をフィードバックした上で、その結果に対する授業改善に向けたコメントを記載してもらった。学生と教員がともに授業を振り返ることで、今後の授業改善に活用できるだけでなく、教育と学修を全学の視点から考察するデータ資料となった。

FD・SDニュースレターの発行により、大学全体としての教育に対する課題や指針等を伝えるとともに、実際の「FD・SD活動」を周知することができた。当年度はオンライン授業を支えた教職員に焦点をあてた。「学びの継続」という目標が達成できた裏側取材し、共通認識ができ教職協働を進展させる一助ともなった。

以上のような活動を通じて、教員相互、また教職員間において、実質的な授業改善に関する意識と技術を高めるとともに、教育改革の必要性と課題を認識することができ、教育の質向上にむけた啓発および取り組み、環境整備を推進することができた。

また、大学院においては、FD研修会を実施したことにより、研究科教員の指導方法や教育体制の改善等の意識を高めることに繋がった。研修会で得た情報を踏まえ、研究活動、学生指導に活用することとしている。

学部を担当する教員も積極的に参加し、大学院の教育活動への理解を深めることができた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

2020年度Ⅰ期、学生に対してのオンライン授業へのアンケート、Webの実施

2020年度Ⅱ期、対象すべての科目、Webの実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

教学情報システム、本学ホームページ

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
別紙2のとおり

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和3年10月30日 公表

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開（予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・平成28年度に認証評価機関（日本高等教育評価機構）において受審済。

・令和4年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、学内で検討中。

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 FD 委員会規程

平成21年4月1日制定
兵大程第160号

(趣旨)

第1条 この規程は、FD委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程における「FD」のとは、ファカルティ・ディベロップメントの略で、教育活動全般に関わって、教育職にある者の能力を開発することを指す。具体的には、次の事項に関する組織的活動をいう。

- (1) 大学の教育理念・方針のもとにある学部学科の教育方針及び大学運営組織についての理解(新任教員研修など)
- (2) カリキュラム開発および学習支援(初年次教育などのカリキュラム開発、及び履修指導、学生指導・相談等の学生支援システム開発などを含む)
- (3) 教育技法の修得(学習理論、教授法、討論法、学業評価法、教育機器利用法など)

2 この規程における「授業改善アンケート」とは、授業の内容・方法および学習環境等についての学生による評価に関することをいう。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を審議し、実施する。

- (1) FD推進のための企画に関すること
- (2) FDの実施に関すること
- (3) FDの研究に関すること
- (4) FDの報告書等の作成に関すること
- (5) 授業改善アンケートの企画及び実施に関すること
- (6) 授業改善アンケートの研究に関すること
- (7) 授業改善アンケートの結果分析および公表に関すること
- (8) その他、FD及び授業改善アンケートに関すること

(構成)

第4条 委員会は、次に掲げるもので構成する。

- (1) 学長が委嘱する委員長
- (2) 学長が委嘱する職員若干名

2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

(任期)

第5条 前条の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第6条 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

2 委員会に副委員長を置くことができる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(専門部会の設置)

第7条 委員会は、FDの推進及び授業改善アンケートの実施に関連して必要に応じて専門部会を設けることができる。

2 専門部会は次に掲げるもので構成する。

(1) 委員長

(2) 委員のうちから、委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務課が行う。

(改廃)

第9条 この規程を改廃しようとするときは、委員会に諮り、大学運営会議の議を経なければならない。

附 則

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 「FD委員会規程」及び「授業改善アンケート実施委員会規程」は、廃止する。

兵庫大学大学院ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

(目的)

第1条 兵庫大学大学院（以下、「本学大学院」という。）は、教育・研究の質的向上を図るためにファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）委員会（以下、「委員会」という。）を設置する。

(対象)

第2条 本学大学院が対象とするFDは、次の各号に定めた範囲とする。

- (1) 本学の教員の活動によるもの
- (2) 本学の職員（嘱託職員及び契約職員を含む）の活動によるもの
- (3) 委員会が認めた兼任講師の活動によるもの
- (4) 委員会が認めたティーチング・アシスタントなどの活動によるもの
- (5) その他、研究科長が認めたもの

(組織)

第3条 看護学研究科に係る委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。なお、研究科長は必要に応じて出席できるものとする。

- (1) 委員長
- (2) 研究科長が委嘱した者 3名
- (3) 委員長が個別課題に応じて委嘱する者 若干名

2 委員会の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員会に委員長を置く。

4 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

5 委員長に事故あるときは、第1項第2号により、研究科長が氏名した委員がその職務を代行する。

(任務)

第4条 委員会は、教育・研究の質向上、その他教育改善を図るため、次に掲げる事項を審議し、FD活動を推進する。

- (1) FD推進のための企画及び実施に関すること
- (2) FDに関する記録及び報告書等の作成に関すること
- (3) 大学院が取り組む教育改善に関する講演会、シンポジウム、ワークショップ等の支援に関する事項

(議事)

第5条 委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決定する。賛否同数の場合は、議長の決するところによる。

2 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させ意見を聞くことができる。

(事務)

第6条 委員会の事務は、関連部署の協力を得て教務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、本委員会、現代ビジネス研究科委員会、看護学研究科委員会及び大学運営会議の議を経て、学長が決定する。

附 則
この規程は、令和2年4月1日から施行する。

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

1. 設置計画に基づく履行状況について

1) 大学院看護学研究科が養成する人材像

少子・超高齢社会を背景にして、世界に先立って長寿社会を実現した我が国が、本当の意味での豊かな社会となることを目指し、兵庫大学は建学の精神の「和」を基本に、個性豊かな人間形成と有為な人材育成を行う。即ち、人が生まれてから最後まで「生活の質」と「死にゆく過程・死の質」の高い社会の実現を目指した教育を行い、エンドオブライフケアを含める高度な看護知識に基づくケアを提供することができる看護指導者、看護教育者、看護研究者の人材育成を目指している。

2) 教育・研究指導状況および課題について

- ① 開設初年度である2020年の入学生は11名（博士前期課程2人、博士後期課程9人）、2年目（2021年）は4名（博士前期課程1人、博士後期課程3人）であった。
- ② 教育方法はCOVID-19の影響により、オンラインと対面方式の組み合わせによる方法で講義と研究指導を進めている。
- ③ 特別研究科目の進捗状況については、博士前期学生2人は2020年10月に研究計画発表会を終了した。発表会で出された意見を参考に研究計画書を修正し、研究倫理審査委員会の審査と承認を得て、修士修了年である現在はフィールド調査を実施中である。フィールド調査においては、医療の現場はCOVID-19対応に追われている状況下での100%の研究協力は困難であり、協力対象者の減少および実施時期の延伸などの可能性がある。博士後期課程学生9人のうち8人は2020年11月に研究計画発表会を終了した。発表会で出された意見を参考に研究計画書を修正し、8人中3人が主指導教員を含む教員3人で構成する研究計画審査会の承認を得て、研究計画書を研究倫理審査委員会に提出し、倫理審査で承認を受け、フィールド調査に入った。しかし、博士前期課程と同様の問題があり、実施の延伸可能性がある。一方、研究計画書未審査学生は研究計画審査および研究倫理審査を受けるべく鋭意準備を進めているところである。

2. 総括・評価

看護学研究科開設以降1年が経過したことから、①看護学研究科学生確保について、および②研究論文の質保証についての2点から述べる。

1) 看護学研究科学生確保について

2021年4月における学生数は博士前期課程3人(定数12人)であり、充足率は25%と低い。将来の博士後期課程入学者確保にも問題が生じる可能性がある。このため、本学看護学部卒業生への広報活動をより一層進めていく予定である。

2) 教育の質保証について

2019年4月から2021年5月までの教育はオンラインを中心に面接と組み合わせて進めている。入学した直後からいきなりオンラインを主体とした教育が始まった。このことは、学生と教員が互いの理解と信頼関係を構築する時間がないままに、研究などに関する深い議論を進めていくためには限界があることも考えられる。このため、オンラインを活用した効果的な教育方法の工夫など、FD研修の充実を図り教員の教育・研究指導能力の向上を目指す。

以上